

シテ・レトル

CITE

LETTRÉ

2020
November
Vol.82

11

In order to promote the creation of an attractive Osaka, public and private spheres must link up and work together. The CITE Salon is an organization created as a forum for such collaboration. It was set up in January 1992 as membership organization with the slogan "Vibrant and Attractive Town building towards a New Era".

OSAKA

NAKANOSHIMA

NISHI-HOMMACHI

NAMBA

SHIN-IMAMIYA

Leader's Interview

関西高速鉄道株式会社 代表取締役社長
新井 純氏

大阪・関西の未来を 「なにわ筋線」で ひとつにつないでいく

Event Topics

プロジェクト見学会／ざろんトーク
CITEトークセッション／ソトから見た大阪研究会

Workshop Report

2018・2019年度活動報告会
2020・2021年度活動告知

Members Voice

新入会・株式会社日本設計／新旧役員メッセージ





大阪・関西の未来を「なにわ筋線」でひとつにつないでいく。

JR東西線の鉄道施設を建設・保有、なにわ筋線の整備をされている関西高速鉄道株式会社。今回は、この6月に、代表取締役社長に就任された新井純氏にインタビューさせていただきました。大阪の都心部開発で重要な役割を果たされている関西高速鉄道株式会社の事業や今後の展開、また大阪・関西におけるまちづくりに関する期待と思いなどについてお伺いしました。

新井 純氏

関西高速鉄道株式会社 代表取締役社長

Mr. Jun Arai

生年月日	1955年9月7日	2009年 4月	同府 府民文化部都市魅力創造局長
出身地	大阪府	2012年 4月	同府 政策企画部長
1979年 4月	大阪府入庁	2015年 12月	同府 退職
2002年 4月	同府 広報室広報報道課長	2015年 12月	大阪府副知事
2004年 4月	同府 総務部行政改革室行政改革課長	2019年 12月	大阪府副知事 退任
2005年 4月	同府 総務部行政改革室副理事 兼 行政改革課長	2020年 6月	関西高速鉄道株式会社 代表取締役社長 (現在に至る)
2007年 4月	同府 政策企画部広報室長		

●大阪再生がミッションだった府庁時代
高宮:本題に入る前に新井社長の人となりなどをお伺いしたいと思います。府庁時代も含めて、今まで印象に残っている仕事やエピソードなどがあればお話しただけですか。

新井:1979年の入庁なのですが、イラン革命を原因とした第二次オイルショックが起きて、厳しい就職活動だったことを記憶しています。また、その頃は、大阪府が黒田府政から自治省出身で3期12年続いた岸府政へ移行した時期で、転換期を迎えていました。入庁後は、府税事務所など11年間税務関係の仕事に携わりました。そして、11年目の1990年バブル経済絶頂期の頃、府の税収が1兆円を突破し、皆で喜んだことを憶えています。この年に、企画部に異動して9年間過ごすことになりました。

1991年にバブル経済がはじけて以来、大阪の地盤沈下が言われて久しいのですが、これは、製造業を中心に産業構造の転換が遅れて、リーディング産業が育たなかったということによるものだと思います。そんな中、東京一極集中が加速し、大阪をいかに再生するか、活性化するかが退庁するまでのミッションとなりました。

●なにわ筋線プロジェクトに携わる

遠藤:なにわ筋線の話について早速お聞きしたいと思います。「なにわ筋線」の計画構想は1980年代からあり、1989年5月に運輸政策審議会の答申に構想が盛り込まれたとお聞きしています。私が生まれたのが1990年ということもあり、その頃からの話が今こうして整備に向かって大きく進んでいることが楽しみです。特に、沿線には、さまざまなまちづくりプロジェクトも展開されていく中で、そうしたプロジェクトにかかわっているCITEさろんの会員企業も多いことから、この路線への関心が深いと思っております。

「なにわ筋線」が担う役割や関西のまちづくりへのインパクト・効果は、今後、大きく関西全体の発展にも広がっていくようにも思いますが、そのあたりについて、府庁時代のご経歴も含めて、大阪のまちがどのように変わっていくかなど、お話しをお聞かせいただければと思います。

新井:今おっしゃったように、1989年に国の運輸政策審議会答申に大阪圏における鉄道網の整備に関して基本計画として位置づけられて以来、まさに構想30年で動き出しています。その間、2004年に近畿地方交通審議会答申でも位置づけがさ

れていますけれども、具体的に動き出したのは、まさに3年前の2017年で、大阪府、大阪市、JR西日本、南海電鉄に阪急電鉄が加わって整備計画の概要が取りまとめられました。そして、同年に関西高速鉄道が事業主体になることが決定されました。構想から具体的な動きまで30年という長い時間がかかった原因ですが、ひとつは事業規模が大きかったということです。それに伴って費用対効果や事業採算性など事業実現についての見極めに時間を要したということもあったのではないかと考えています。

では、なぜ、具体化が早急に進んだか、ということですが、社会経済情勢の変化と併せて、ひとつは府市連携が格段に進んだということがあるといいます。例としては、インフラ整備でいうと淀川左岸線の延伸や、うめきたの一期、二期、中之島4丁目5丁目の開発といった拠点整備が進んでいたり、また、コンセッションにより関西国際空港の機能も伊丹空港と一体化されて強化されました。具体化が早急に進んだもうひとつの要因に、来阪した外国人観光客いわゆるインバウンドが大幅に増加したということがあります。2014年に376万人だったのが2017年には1,111万人と3倍に増えました。北陸新幹線やリニア中央新幹線の大阪延伸の具体化も動き出すきっかけになっています。さらに、2025年の万博やIRも影響しています。これらの要因から、なにわ筋線の需要や採算性について具体的な目途がついて、事業化することになったのだと思います。

高宮:今お話にありました中之島の西部開発についてですが、私の本社が中之島にありまして、西部地区はずっと空地や駐車場だったのですが、大阪中之島美術館が立ち上がり、なにわ筋線が決まって、期待が膨らんでいます。入社以来、ずっと

静かだったのが、急に動き出したな、と…。
新井:元々、中之島は国立美術館や市立科学館、国際会議場があったりする中で、長年の懸案であった市立近代美術館や府市共同事業である未来医療国際拠点整備・運営事業などが具体化されようとしています。これから中之島西部は、ビジネスや文化、医療、国際交流などを通じて大阪の顔となっていくエリアだと考えています。
遠藤:2020年8月に事業認可を取得されたとお伺いしておりますが、これからの動きやコロナ禍の影響をお聞かせ願えますか。

新井:8月に事業認可を取得した後、既に9月に地元地域の方々や事業予定地の地権者の方々に対する説明会を6回開催しております。今後、精力的に、地域の皆様方のご協力を得ながら、事業用地の取得を進めていきます。また並行して、中之島駅、西本町駅、南海新難波駅といった駅部を中心に工事の事業者を決める作業を進めています。そして、具体的には来年(2021年)春を目途に工事着手し、2031年春の開業をめざしたいと考えています。

コロナ禍への対応としては、社内にアクリル板を設置したり、リモートワークを実施したりしています。コロナ禍の影響で大きいのは、やはりインバウンドの減少が上げられます。また、鉄道は人を運ぶ装置なので、先ほど、なにわ筋線の具体化が進んだ要因についてもお伝えしましたが、拠点開発、空港、インバウンド、万博、IRみな同じなのですが、コロナ禍によって、人の移動が阻害されている状況になっています。この影響が少なからず出てくるのだろうな、と感じています。元々、インバウンド全盛期での沿線計画で事業採算性や費用対効果を見ているので、今後の人の流動がどうコロナ禍の影響を受けるのか、見極めていく必要があると考えています。



●IR・万博に関わった都市魅力創造局長時代

高宮:ところで、インバウンドが急拡大したのと都市魅力創造局長をお務めになられていた時期が重なっていると思います。局長時代に都市魅力を仕掛けられた中で印象に残るエピソードはありますか。

新井:都市魅力創造局長になったのが、橋下府政になって2年目の2009年でした。橋下さんは、人を引きつけること、発信力のあるものにたいへん力を入られた方でしたので、御堂筋のイルミネーションや大阪マラソンをはじめました。IRについてもこの頃、研究会を立ち上げました。

高宮:今、お話しいただいたIRについては、万博とも相まって夢洲での実施に向けた動きが活発化してきていますが、どのような期待感をお持ちでしょうか。

新井:IRには、国内外から人を集める装置として具体化していったほしいものです。これは、カジノだけではなく、一流の舞台芸術やMICEなどの機能強化を図っていただきたいと思います。いずれにせよ、立ち上げに関わった人間として、具体的に動き出したのはうれしい限りです。

万博については、私自身、世界の30ヶ国以上の国々を相手に誘致活動をしました。印象深かったのは、2017年にアゼルバイジャンのアスタナ博を訪れた際、会場には各国のBIEの代表や大臣クラスの人たちが集まっていて、そこで誘致活動をしたことです。誘致活動は、政府と企業と地元の三者が一体で行うのですが、私は地元の立場として、「なぜ、大阪が開催地にふさわしいか」ということを伝えました。その中で、①大阪圏には、3つの空港があり、高速道路や鉄道で、日本の主要都市に短時間で往ける便利な都市であること。②大阪自体が第二の経済圏として機能していて、豊富なビジネスチャンスがある

こと。③大阪にはフレンドリーな気質にあふれた人々がいること。④文化や歴史の蓄積がある魅力的な都市であること。これらの魅力を伝えながら「ぜひ、大阪に万博を！」とひたすら訴えたものでした。また、「エンターテインメント」と「食」の魅力が大きく、当時、和食が無形文化遺産に登録されたりしていたので、「食のまち」と盛んに訴えていたのを憶えています。さらに、アジアの玄関口なので、やって来る多くの人に自国を世界に効果的にアピールできることもお伝えしました。それともうひとつ、大阪・関西は健康医療やヘルスケアなどライフサイエンスのメッカであることも訴えました。そしてそれらを、「未来社会の実験場」というコンセプトでまとめて誘致活動を行いました。期待としては、松井市長の「万博に来たら10歳若返る」というコメントもありましたが、たくさんの人をワクワクさせるような、未来社会に貢献できるような万博になってほしいものです。

●コロナ後の万博のあり方について

高宮:万博に参加する一企業の人間として感じていることは、やはりコロナ禍前後で潮目が大きく変わったなということです。しかしながら、元々デジタルやICTがキーワードに盛り込まれていたもので、そういったバーチャル的な要素を活かして展開することで光明を見出すことができるのではないかと期待しています。また、「いのち」「健康」といったテーマがあるので、コロナ後の世界を明確に描く万博になってほしいと思いますが、いかがでしょう。

新井:元々、タブレットを活用して、遠隔地で来場できないような国の人たちにも体験してもらえようという仕組みをつくるということが、以前からプランされてい



ました。人に来てもらって体験するテーマパーク的なことだけではなく、デジタルやICTを活用したバーチャルでの体験ができるような楽しみ方、参加の仕方も視野に入れてみるのが良いように思いますね。

高宮:一方で、私は電力会社の人間としてインフラ整備の観点から、集まることに対する是非論の行方が集客目標にどのような影響を与えていくか、非常に気になっております。

新井:そこは、まさに都市基盤整備という鉄道整備をしている者としても同じような思いを持っています。今のところ、鉄道では、万博の開催で大阪メトロ中央線の延伸が計画されていますが、IRへのアクセスも含めて、海外からは、関西空港から入って来る訳ですから、さまざまなアクセスルート持っておくことが大切になってくると考えています。

今、SNSなどで新しい交流の仕方が実験されていますが、実際に人を運ぶ鉄道事業者としては、実際の集客が気になるところです。大阪のまちの魅力を発信し、さまざまな人たちが大阪に来て交流し、新しい価値を生み出してほしい、その手段の一つが鉄道ですから、実際に、どれだけの人を運べるかということが気になるところですね。

●大阪発展のキーとなる、なにわ筋線

高宮:万博の開催、IRも含め万博後の夢洲の開発がどうなるのか。それと夢洲とそれ以外の地域がどのように連携していくのが大阪のまちづくりのキーになっていくように思われますね。

新井:なにわ筋線を敷設している立場としてお伝えしたいことのひとつは、うめきたや中之島、なんばを結び、キタから関空までの南北軸をつくる役割を担っているということです。それと、関空のイン

バクトを西日本全体につないでいくためには、新大阪エリアの開発が重要なキーを握っていると考えています。新大阪は大阪メトロの御堂筋線やおおさか東線ともつながっています。山陽新幹線はもちろん、将来は北陸新幹線、リニア中央新幹線ともつながります。これらの結節性を考えると、新大阪をいかに開発するか、関空までいかにつなぐかが、大きな課題となるでしょう。既に当社が整備するなにわ筋線の梅田から新大阪に向けて、JR西日本だけでなく、阪急電鉄の十三駅を経由して結節する構想も公表されています。ところで、リニア中央新幹線は、財政投融資の活用により2045年開通の予定が8年前倒しになり2037年開通の予定となりました。北陸新幹線の大阪延伸は環境アセスメントが2022年に終了し、その8年後に工事着工となり15年ほどの工期を経て2045年くらいに開通する計画ですが、環境アセスメント終了後、直ちに着工し、少なくともリニアと同時に開業してほしいものです。

リニア中央新幹線と北陸新幹線とつながることは、大阪・関西の新しい経済圏づくりにとってとても重要な要素となります。これらと万博やIRをリンクさせることで、相当な相乗効果が生み出せるのではないかと考えています。

高宮:鉄道をはじめとする交通軸とそれに伴うさまざまな拠点開発がお互いに前後して相乗効果を生みながら進んでいく。今は、まさに大阪のドラスティックな成長を目の当たりにできる絶好のチャンスだと感じています。

新井:そういった意味において、関空やリニア中央新幹線、万博、IRなどといったことをつなぐ役目を担っているのがなにわ筋線ではないか、と。そこに、一番の意義を見出しています。



●なにわ筋線が新たな文化軸をつくる

高宮:今まで、大きな大阪の動きをお伺いしてきたのですが、なにわ筋線をマクロ的に見てみると、沿線にはさまざまな文化施設があると感じています。なんばハッチ、オリックス劇場、大阪国際会議場、大阪中之島美術館、大阪四季劇場、新しくできるMBS劇場など、大阪の文化軸が南北に並んでいる印象があります。インバウンドという大きな目線もあるのですが、最近注目されているマイクロツーリズムなどでも大阪の魅力が改めて脚光を浴びてくのではないかと期待しています。

新井:なるほど、おっしゃる通り、文化軸という視点はありますね。そういった視点でのまちづくりには可能性を感じますね。

●リアルな交流をいかにつくっていくか

高宮:最後になりますが、私はCITÉさろんのワークショップに参加しておりまして、「新しい時代に向けた活力と魅力あるまちづくりの推進」をスローガンにして、独自の調査や研究によるまちづくりの提言やシンポジウムの開催など多彩な活動を展開しています。このようなCITÉさろんの取り組みに関して、アドバイスなどがありましたらお伺いしたいと思います。

新井:都市の魅力も都市づくりも、さまざまな人が出会って、文化が交流することで新しい価値が生み出されることで実現できることだと思います。それが、コロナ禍の影響で、人と人のリアルなディスカッションや交流が妨げられているように感じています。まちづくりも同様なのですが、やはり「空気感」がとても大切だと思います。出会って感じることで、そこに居て感じることで、オフラインでのリアルな交流

も必要なのではないのかなと、そういう意味では、CITÉさろんはどうされていくのかな、と。やはり、実際に顔を合わせて、Face to Faceのコミュニケーションをすることも大切にしていきたいと思っています。コロナ禍のことですから、いろいろ工夫が必要だと思うのですが、何かピンチをチャンスに変えるような活動を期待しています。

高宮・高宮:今日は長い間、貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。これからも試行錯誤しながらCITÉさろんの活動を続けていきたいと思っています。今後ともご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。ありがとうございました。



インタビュー
高宮 紀子 氏
関西電力株式会社・CITÉさろん広報委員会委員長
遠藤 康太 氏
株式会社NTTファシリティーズ・CITÉさろんWSメンバー

取材場所 関西高速鉄道株式会社 応接室
取材日 2020年10月14日(水)

※三者での撮影は、新型コロナウイルス感染拡大に関して、十分に対応した上で、マスクを外して実施しています。ご了承ください。

まちづくりを考える、体験する、多彩なイベントを開催しています。

第1回プロジェクト見学会

2020年9月23日(水)15:00~17:00
三井ガーデンホテル京都河原町浄教寺・
GOOD NATURE STATION

**古都・京都で、古刹の建替えと
一体開発されたユニークな
商業・宿泊複合施設を視察。**

本年度第1回目のプロジェクト見学会は、三井不動産様、京阪ホールディングス様のご厚意により、京都に古くからある寺院の建替えと一体開発したユニークな宿泊施設「三井ガーデンホテル京都河原町浄教寺」と、環境や健康をテーマに新しいライフスタイルを提案する斬新なコンセプトの商業・宿泊複合施設「GOOD NATURE STATION」を見学させていただきました。

参加者36名を2班3グループに分けて見学するなど、新型コロナウイルスの感染対策を考慮した初めての試みでしたが、ご案内いただいた関係者の皆さまの多大なご協力により無事に実施することができました。恒例の見学後交流会は希望者のみの参加で、かつ、5名未満での分散開催としましたが、久しぶりのリアルの交流を楽しまれたようです。

なお、希望者のみの参加ではありましたが、竹中工務店様のご案内により、「立誠ガーデンビューリック京都」の、外観デザインのミニ視察会も実施しました。



GOOD NATURE STATIONでのレクチャー



浄教寺での事業説明

第2回プロジェクト見学会

2020年10月26日(月)14:00~17:00
名古屋駅周辺地区・RAYARD hisaya-odorii Park

**リニア開業に向けて
まちづくりが進められている
名古屋駅周辺などを視察。**

本年度第2回目のプロジェクト見学会は、リニア開業に向けて様々なプロジェクトが進む名古屋での開催となりました。

名古屋市長官邸の方にご協力を頂き、名古屋駅周辺のまちづくりと久屋大通りをはじめとした栄地区の開発動向や民間投資を誘発するための都市開発手法などの説明を受けました。

今後、北陸新幹線の整備やリニア中央新幹線の延伸に伴って再整備が期待される新大阪駅周辺開発の参考になりました。

三井不動産商業施設本部の鈴木主査より、平成29年に創設されたPark-PFIに指定管理者制度を組み合わせて再生した久屋大通公園の説明を受け、その後現地をご案内いただきました。

以前は鬱蒼とした緑の印象しかなかった公園が、人々が集い、楽しむことのできる魅力的なシンボル空間へと変貌を遂げていました。民間活力によるパブリックスペースの有効活用については大阪が先行していますが、制度の拡充により、適用の範囲が益々広がることを期待します。

ここでも恒例の見学後交流会は希望者のみの参加としましたが、3密を避けたPark内のテラスにて、時間とともに様々な演出が繰り広げられる水盤を背景に名古屋の夕べを楽しむことができました。



名古屋テレビ塔をバックに記念撮影

第1回さろんトーク

2020年10月14日(水)15:40~16:40
大阪府立大学 1-siteなんば2階C2-3

**井上亮大阪市都市交通局長に、
「交通の『かたち』・「都市の『かたち』」
というテーマで語っていただきました。**

冒頭、都市交通局長の役割と具体的な業務について、市内の交通施策の推進と、大阪メトロおよび大阪シティバスの監理の業務、BRTの取り組みやAIオンデマンド交通の推進等を担う発足4年目の組織である旨の概略説明がありました。

また、1986年大阪市へ入庁以来、都市計画や交通計画、都市開発中心に取り組み、都市工学情報センターではCITEさろんにも関わってきた旨、自己紹介されました。交通の「かたち」として、市内交通の変遷を通じて、都市の「かたち」が作られ、鉄道、自動車から新しい交通の形(スマートモビリティ)に言及されました。スマートモビリティ(BRT、オンデマンド交通、MaaSなどから、自動運転の世界へ)の新たな取り組みがなされていくことにより、自動車と公共交通の構図が、対立・補完から融合・調和へと、交通の「かたち」が変わっていく旨のお話がありました。

また、コロナの都市交通に与える影響について、交通量の減少(テレワーク、時差通勤)、3密回避により、これからの都市がどう変わるか? 集まって住むこと・移動することなどの良しあしが話題となるなか、都市のスケールメリット、Face to Faceの重要性、オフィスワークとテレワークが補完的な関係で、都市と交通の再構築がなされるであろうこと。恩師佐佐木綱教授の「最後まで残る交通」論を紹介され、生産活動維持のための派生需要としての交通はより効率的なものに移行し、散歩など他人をもって代替しがたい根源的需要による交通は最後まで残るとの考えから、これからの交通の「かたち」、都市の「かたち」として、日常生活圏での交通はオンデマンド、乗り合い、自動運転などのスマートモビリティが重要な役割を果たし、中枢機能を担う地域への頻度の低い足の長い交通は基幹交通ネットワークとして鉄道やBRTが担うなど都市と交通が再構築されていくであろうとの考えを示されました。その際には、持続可能で、バランスの取れた時間・空間を持つ新たな交通の「かたち」・都市の「かたち」を作り出していくことが重要で、その期待感を込めて、講演を締めくくられました。



第1回CITÉトークセッション

2020年10月23日(金)19:30~21:30
オンライン開催(大阪中ニューヨーク)

**第1回CITÉトークセッションを開催。
NY在住の島田さんから
レクチャーを受けました。**

緊急事態宣言以降、3密回避やテレワークなどにより、働き方や暮らし方が大きく変わりました。今年度のCITÉトークセッションとシンポジウムは、「アフターコロナの大阪が目指すべきもの」をテーマに開催。また、トークセッションは、オンラインで開催しています。

第1回は、ニューヨーク(以下NY)市公園局でご活躍中の島田智里さんを講師に、「これからの時代の公共空間のあり方〜コロナ禍におけるニューヨークの都市と公園の変化から考える〜」と題して実施しました。

前半は、NY市における公園政策について、市の長期計画のなかに「公園と公共空間」として位置づけられ、設計前から市民参加で作るカスタムデザイン、周辺環境との調和やプレイスメイキング手法等による快適な空間づくり、10年契約の包括的な公園管理計画などが紹介され、また、都市の緑の状況調査としてGISや市民ボランティアなどを活用して個々の街路樹データを視覚化公開し、市民とのつながりを重視していることなどお話しいただきました。

後半は、ロックダウンが行われたNYでの公園の使われ方について、行政のマスク無料配給、セントラルパークでの緊急病院設置、安全利用のための手洗場設置、ソーシャルディスタンスへの配慮などをご紹介いただきました。在宅勤務の増加、学校や施設の閉鎖による働き方・暮らしの変化により、徒歩や自転車圏にある公園が、運動の場や、癒しや自然環境の提供を担っていることも紹介され、これからの都市や公園のあり方やまちの回復は、教育や福祉、犯罪やホームレスなどの社会課題、芸術やエンターテインメントなど包括的に考える必要があると締められました。

NYとの時差は13時間ですが、時差と距離を超えて身近にお話を伺えました。



島田智里氏
ニューヨーク市公園局
都市計画&
GIS(地理情報システム)
スペシャリスト

ソトから見た大阪研究会

大阪を「ソトから見る」、大阪の「ソトから学ぶ」ことを通じ、多様な価値観や視点で得た情報や意見をとりまとめ、都市の価値創造や女性の活躍、多様性を活かしたまちづくりのヒントとする「ソトから見た大阪研究会」の活動をご紹介します。

**■今年度以降の活動の方向性について
報告しました**

8月21日のCITÉさろん幹事会にて、昨年度の活動結果と今年度以降の活動の方向性について報告しました。



幹事会での報告状況

今年度は、コロナ禍を経て生まれてきた私たちの価値観の変化に着目し、「新しい価値観と心地よいコミュニケーションから生まれる、これからのまちづくり」の姿を探ることにしています。

また、今年度から、2年単位の活動することとし、初年度はヒアリングや視察、次年度は、参加者をCITÉさろん関係者全体に広げたソト研視点の大きなイベントを行います。今後も、ソト研をどうぞよろしくお願いいたします!



幹事会での発表者

■「アフターコロナのまちにわたしたちは何を求めるのか」働き方・暮らし方に対する価値観の変化についてアンケートを行い、オンライン意見交換会を実施しました

コロナ禍を経て、社会全体だけでなく、私たちの日々の暮らし方・働き方に対する考え方や価値観にも大きな変化が生まれています。ソト研では、各々が感じたこうした変化を把握し、これからのまちづくりへのヒントを探るため、アンケートを行いました。

・実施期間:8月7日~8月31日
・有効回答数:105件(20代~50代の男女)

また、このアンケートを元に、『コロナが完全に収束した後の、これからのまちにわたしたちは何を求めるのか』というテーマで、オンラインで意見交換会を行いました。CITEさろん会員の皆さまにも多数ご参加いただき、和気あいあいとしながらも活発な意見交換会となりました。



オンライン意見交換会の状況

■人と人、人と場をつなぐコミュニケーションの新しい形「オンライン宿泊」の体験会およびヒアリングを行いました

コロナ禍を経て、私たちの暮らしの中に浸透し始めた「オンライン」という選択肢。新たなコミュニケーションのツールとして、仕事だけでなく飲み会やイベント等での活用も広がっています。

一方で、現地を訪ねたり、対面で直接会話をするコミュニケーションの大切さを実感することも...

私たちは、オンラインの便利さを活用したコミュニケーションの新しい形を探るため、「オンライン宿泊」という新しいサービスをはじめられた、ゲストハウス「Why Kumano」さんへお願いし、以下の日程でオンライン宿泊体験会とヒアリングを行いました。

・オンライン宿泊体験会:10月19日、10月27日
・オンラインヒアリング:10月28日

■アンケート結果や「オンライン宿泊」のレポートを随時アップ予定!ぜひご確認ください!

ソトから見た大阪研究会 ホームページ
<http://sotokencitesalon.jp/>
ID:member PWreadme

2018・2019年度の3つのワークショップ活動の成果を報告しました。

2018・2019年度ワークショップ報告会(大阪市)

2020年7月17日(金)10:00~11:30
大阪府役所7階 市会第6委員会室

2018年度から2019年度の2か年にわたる3つのワークショップ活動の成果を、座長の3人の先生方に参加いただき、大阪市副市長ほか都市計画局幹部に報告しました。各WSとも、時代を先取りしたWS活動に高い評価を受けることになりました。

【出席者】
【大阪市】高橋副市長、角田都市計画局長、高野理事、吉備理事、西村部長、山田部長、上溝部長、榊野課長、西村課長代理、比企担当係長(WS1)、佐藤担当係長(WS2)、松村担当係長(WS3)
【CITÉさろん】藤野会長、岩崎副会長、和田副会長、奥野分科会活動委員長、橋本副委員長
【WS座長】松島格也京都大学大学院准教授(WS1)、佐久間康富和歌山大学准教授(WS2)、松村嘉久阪南大学教授(WS3)
【WS発表者】鳴滝(JR西日本)、永田(阪急電鉄)(WS1)、平井(大林組)、逆瀬(阪急阪神不動産)、仲村(竹中工務店)、福田(ザイマックス関西)、遠藤(NTTファシリティーズ)(WS2)、山岡(奥村組)、高谷(中央復建コンサルタンツ)、山内(南海電気鉄道)(WS3)

【報告概要】
冒頭、高橋副市長より、CITÉさろんWS報告会を楽しみにしている。大阪、大都市の成長をどう考えていくのか、官民の若手が意見を交換し合う、交流の場、プラットフォームは非常に重要である。今後もバージョンアップして活動してほしい旨、期待感を表明されました。各座長から、テーマの主旨等、総括的なコメントを拝受し、その後、メンバーがそれぞれ分担して報告を行いました。(報告の内容は次ページ参照)
【WS1】テーマ「多様化した時代のコミュニケーションを見据えた都市・交通戦略」
20・30年後、今まで想定していないことが起こるのではないかとメンバーに問いかけた。すでに想定外のことが、今回のコロナ禍で起こっている。発表内容は、いろんなシナリオの中で英知を絞った結果であると、松島座長からのコメントがありました。

【WS2】テーマ「まちづくりの観点から考えるリノベーションのあり方」
空き家の活用は研究上も、政策上も課題であるが、どうやって地域の価値向上につなげていくのか。提案としてはできるが、選んでもらえる地域とするために大きな溝にしておくこと、それをどうやって行くのかをメンバーと議論してやってきた。大阪でもいろんなところで仕掛けが始まっている。手探りの中で、メンバーが、政策提言や知見の整理を示せたが、地域の価値向上につなげる命題に対して一定整理もできた。政策提言はたたき台で、生活者

の視点での目利きの話は興味深い内容である旨、佐久間座長から報告されました。
【WS3】テーマ「国際観光で大阪・日本の次世代と未来を創る戦略」
松村座長より、テーマの狙いとして3点示された。①大都市が生き残るためには、継続的に新しい住民を呼び込むことが大事。②観光立国を目指すには、大阪がゲイトウェイの役割、大阪に外国人が来なければ地方には行かない。③大学教員として30名の留学生と対応したが、12名が日本に残り、6名が帰化し、4名は大阪に住んでいる。日本に来る外国人、アジアの若い優秀な人たちは海外に逃げたがっている。そうした人々をどれだけ取り込めるかが大事。プロセスとして、観光・宿泊・滞在⇒留学⇒暫住⇒定住、があることをメンバーに示して活動してもらった旨、松村座長より示されました。

【講評】
各WSからの報告の後、副市長をはじめ、調査研究に対する講評を受けました。
WS1については、副市長から、「コロナ禍でのまちづくりを考えていく上で、30年後の検討はタイムリーな話題であり、withコロナ、afterコロナのまちづくりをどうしていくのか、関係局横断的にプロジェクトチームを作って勉強している最中。キーワードとして、都心と郊外の役割、またコミュニケーションの場をどこに設けるかが大事と考えている。今回、WSで指摘されたことは、公共空間の利活用、道路空間の再編、公園の活用がキーになる。タイムリーな話題で参考になる。」との講評がありました。
WS2については、「空き家等の空間活用についてはずっと課題であり、コロナを契機として『テレワーク』というキーワードが出てきた。空き家・長屋を使ったリノベーションで、『テレワーク』をキーワードとして新しい施策を創れないか考えている。また、リノベーションの相談窓口の設置も考えてきたい。」との講評がありました。また、「エリアのとらえ方について関心がある。空き家についても個別のマッチングは計画の中でやっているが、エリアでとらえたときに効果はどうか、新しい視点を指摘いただいた。」とのコメントもありました。
WS3についても、「インバウンドの回復には多少時間がかかるだろうから、タイムラグ、余

裕があるうちにいろんなことを準備したい。大阪観光局にもこの報告書を紹介したい。観光情報プラットフォームは重要。フグ等の大型看板については、観光資源の一つで考えられないか、大阪万博に際して、外国人に住んでもらうことも大事。観光、留学、就職、定住というステップは重要。特に観光での来訪、留学が重要であると思う。」等の発言もありました。



市会第6委員会室にて報告



高橋副市長挨拶



座長からの総括コメント



松島座長・WSメンバーからの報告



WSメンバーからの報告

2018・2019年度ワークショップ報告会(幹事会)

2020年8月21日(金)14:30~15:30 (定例幹事会後)
ヴィアール大阪4階ヴィアールホール

2018年度から2019年度の2か年にわたるワークショップ活動の成果を、座長の先生方にも参加いただき、定例幹事会で報告しました。今回の報告会は、4月定例幹事会で予定されていましたが、8月開催となりました。密を避けるため、人数を絞った上、大きなスペースを確保しての開催でした。

【出席者】
【CITÉさろん】和田会長ほか常任幹事、各幹事、指定代理人
【WS座長】佐久間康富和歌山大学准教授(WS2)、松村嘉久阪南大学教授(WS3)
【WS3オブザーバー】松村担当係長(大阪市)
【WS発表者】鳴滝(JR西日本)、永田(阪急電鉄)(WS1)、平井(大林組)、逆瀬(阪急阪神不動産)、仲村(竹中工務店)、濱田(大阪ガス)、遠藤(NTTファシリティーズ)(WS2)、山岡(奥村組)、貝谷(南海電気鉄道)、佐伯(阪急電鉄)、山内(南海電気鉄道)(WS3)

【報告概要】
各座長から、総括的なコメントを拝受し、メンバーがそれぞれ報告を行いました。
【WS1】テーマ「多様化した時代のコミュニケーションを見据えた都市・交通戦略」
都心エリア、郊外エリアの2チームで、20・30年後をイメージしつつ、ヒアリングやディスカッションを重ね、新たな公共空間の楽しみ方や、本来の豊かさを議論しながら、ニュータウンの住まい方などを提言しました。

【WS2】テーマ「まちづくりの観点から考えるリノベーションのあり方」
都市のスポンジ化等の懸念に、「エリアリノベーション」が期待されていますが、地域の価値向上につなげる実践例を調査してきました。大阪市内の事例、地方の事例、公共不動産の活用事例に学びながら、「目利き」の存在と小さな空間と地域全体の価値向上に関する知見を得られたということが報告されました。
【WS3】テーマ「国際観光で大阪・日本の次世代と未来を創る戦略」
多くの外国人旅行者が「観光等」で大阪・日本を訪れ、楽しんでもらった後、留学等による「暫住」、そして職、伴侶を得て「定住」というプロセスの中での、宿泊拠点、エンターテインメントコンテンツ、観光情報プラットフォーム、定住外国人の共生と定着等について、各チームで現場から知見を得、提言をまとめました。国際観光という大きなテーマについて、WSメンバーで得られた知見は今後も有益なものとなる

と報告されました。
各WS活動に幹事から高い評価を受けました。



WS1のメンバー



WS2の座長とメンバー



WS3の座長とメンバー

2020・2021年度の3つのワークショップの活動をはじめます

前期の2か年にわたるWS活動成果を引継ぎ、座長の3人の先生方にも引き続きご指導をいただきながら、新たなメンバーでWS活動を行ってまいります。

<p>【WS1】</p> <p>座長・松島格也氏 京都大学大学院 工学研究科産学連携</p> <p>テーマ:「withコロナ、afterコロナのモビリティを考える」 概要:コロナ禍で一変し、また新たな気づきがあったモビリティの意義とそのあり方について、コロナ禍が終了した後も見据えて、対面とオンラインの適切な役割分担、必要とされるモビリティや支えるべきモビリティなどについて検討し、将来のモビリティの姿を描きそれを支える都市・交通戦略を提案することを目指す。</p>	<p>【WS2】</p> <p>座長・佐久間康富氏 和歌山大学 システム工学部准教授</p> <p>テーマ:「リノベーションの観点から考えるエリアのあり方」 概要:コロナの影響を受けて、「新しい日常」が立ち上がろうとしている。ストック活用型社会への転換が促される中、「エリアリノベーション」という概念が、人口減で衰退する地域の課題解決の一方策として期待されている。事例を取り上げ、リノベーションの観点から風成市街地における持続可能な「エリア」のあり方を考察したい。</p>	<p>【WS3】</p> <p>座長・松村嘉久氏 阪南大学 国際観光学部教授</p> <p>テーマ:「コロナ禍を乗り越えて大阪の都市空間の再編を考える」 概要:市内部での生活空間~CBDに至るかつての都市空間の構造が、コロナでどのような影響を受けて、変わりつつあるのか、変えていけばいいのかを議論しつつ、個別のテーマも取りたい。モビリティの回復や、国際観光都市・大阪を、コロナ禍で生じた変化を受けとめ、方向づけるのか、変化に対応する新しい動きを、現実の大阪の都市空間のなかでどのように落とし込めればいいのかまで踏み込みたい。</p>
--	---	---

お世話になった前任の方々からメッセージが届いています。

前CITÉさろん顧問 吉岡 亨氏

思えば、大阪ガス在籍時から退職後まで、かれこれ20年近くCITÉさろんのお世話になりました。CITÉさろんは、大阪エリアのまちづくりと地域活性化をテーマに、多様な企業が交流し産官学連携の様々な活動を展開するプラットフォームとして、他に類を見ない存在です。設立時から全面的にバックアップしていただいた大阪市の皆さん、新鮮で楽しい活動を展開してくれた会員の皆さん、そして事務局に感謝します。ありがとうございました。そしてこれからもCITÉさろんをよろしくお願いいたします。



前CITÉさろん副会長 長江 恵氏 西日本電信電話株式会社 島根支店 支店長

研究活動委員会と総務委員会を担当し、プロジェクト見学会や食文化研究会、幹事研修会等に携わらせていただきました。皆さまのご支援のおかげで務められたと感謝しております。6年間大変お世話になり、ありがとうございました。活動の中では、まちづくりに関する知見等を得る事だけでなく、皆さまとの交流が本当に財産となりました。島根に異動しましたが、これからもよろしくお願いいたします。CITÉさろんの益々のご発展をお祈りしております。



前CITÉさろん会長 藤野 研一氏 関西電力株式会社 執行役員 営業本部 副本部

2012年度より副会長を5年間、2017年度～2019年度まで会長を3年間務めさせていただきました。様々な視点からまちづくりを自主的に学び、熱い想いをぶつけ切磋琢磨しながら大阪のまちづくりを活性化させるための官民連携の場づくりを盛り上げる役回りとして、私個人としても時には会社の仕事を忘れて非常に刺激的な経験をさせていただきました。コロナ禍ではありますが、変化を受容し常に時代をリードするような取り組みがこれからも続いていくことを常任顧問として見守らせていただきます。



前CITÉさろん研究活動委員長 岸田 文夫氏 株式会社竹中工務店 開発計画本部長

CITÉさろんには2016年から4年間お世話になりました。後半の2年間は、研究活動委員長を務めさせていただき、見学会等の企画や実施にあたっては、皆さまや事務局の多大な協力で、何とか乗り切ってきた。また、さろんトーク等の進行では、人前で話すのが苦手な故、多々ご迷惑をお掛けしました。皆さまとの親交は私の大きな財産です。本当にありがとうございました。近いうちに大阪へ復帰できると希望を持ちつつ、更なる発展を応援しています。



新しい役員のみなさんからのメッセージが届いています。

CITÉさろん会長 和田 真治氏

この度、来年度30周年を迎える節目に会長の大役を仰せつかることになりました。日本でも例のない官民連携団体として、会員様の企業の利己ではなく、大阪全体のまちづくりを考える利他の精神で、継続されてきた重みを改めてかみしめています。昨年末までのまちの活気が今年に入り一転、現状に驚かばかりです。改めて、こうしたVUCAな時代においては、原点回帰や個人・組織のアイデンティティの再認識、打ち出しが重要だと思っております。今年度に入り、活動もリモートならではのNYから登壇頂いたトークセッションやリアルと併用したハイブリットな幹事会、オンライン宿泊を企画頂いた「ソト研」と、活発に行っておりまして。また逆に、改めて、リアルの重要性、良さも再確認しており、ワークショップなどの「チームアップ」「アイデアだし」「合意形成」は感染対策を実施したうえで、空気感やメンバーの信頼関係が大事であると感じております。是非、皆様とともに、各会員企業様の事業の発展にもつながるように、「今だからこそできること、どうしたら何ができるか」を考えていきたいと思います。タイムリーな課題を取り上げながらも長期的視点で、大阪の誇りを胸に抱き、まちを育て都市格がさらに上がるように、務めさせて頂く所存です。よろしくお願いいたします。

(南海電気鉄道株式会社 執行役員 まちづくり創造室長)



CITÉさろん副会長 大辻 眞一氏

今年は新型コロナの影響により、私たちの生活は急激に様変わりし、働き方、そしてCITÉさろんの活動にも大きな影響をもたらしました。そんな環境の中でもメンバー同士が工夫を凝らして活動する姿に触れ大変勇気づけられています。この会の原点とも言うべきリアルなコミュニケーションに拘りつつ、DXを活用したCITÉさろんのニューノーマルの構築にむけ総務委員会一同、力を合わせて活動して行きたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

(コクヨ株式会社 ファニチャー事業本部 関西営業本部 本部長)



CITÉさろん副会長 松本 利典氏

今年度の広報委員会では、ウィズコロナに対応し、トークセッションはオンライン開催としますが、『それなら遠方の講師にもお願いできるな』と、首都圏のみならずニューヨークから講演をお願いするなど、オンラインの強みを生かし、活動の幅を広げます。ニューノーマル時代の大阪の都市が魅力を放ち、人々が再び集う街になるために、今、何をしておけばよいのか、皆さんでアイデアを出し合ひましょう。

(阪急阪神不動産株式会社 取締役 開発事業本部 開発企画部長)



CITÉさろん総務委員長 樋口 浩子氏

本年7月から、総務委員長を務めさせていただいております。会社では、ICTを活用した街づくりに取り組み、地域の経済発展と課題解決の両立による快適で安全・安心な社会の実現及びSDGs達成への貢献をめざしています。これらを実現するためには、自治体や大学、地元企業の皆さまとの連携が不可欠となります。CITÉさろん会員の皆さまと一緒に、大阪・関西の活性化に取り組んでいきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(西日本電信電話株式会社 ビジネス営業本部 クラウドソリューション部 地域プロデュース担当 担当部長)



CITÉさろん広報委員長 高宮 紀子氏

CITÉさろんには若かりし頃にWGに参加して以来多くの知見や交流の機会を頂き、お世話になってきました。これからは広報委員長としてみなさまのお役に立てるよう務めて参りたいと思っております。コロナの影響で今年度は活動の始動が少し遅くなりましたが、新しい様式、変化を柔軟に取り入れながら、トークセッション、シンポジウム等の活動を通じて、ニューノーマルな大阪のまちづくりに対するみなさまの熱量を一層引き上げていけるよう尽力していきたいと思っております。

(関西電力株式会社 地域エネルギー本部 専任部長)



CITÉさろん研究活動委員長 西元 亮氏

3年前、前任の百野との業務引継ぎで、真っ先に言われたのが、「CITÉさろんだけは、サボらずに出席せよ!」でした。その言葉を念頭に、今日まで積極的に各種活動に参加させて頂きました。研究活動委員会は、「プロジェクト見学会」や「自主活動プログラム」など現地に出かけて体験することが肝要な活動を担当しています。withコロナの今、知恵を絞ってこれらのイベントを実施していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(三井不動産株式会社 関西支社 事業一部長 兼 総務部長)



新しく入会いただきました会員企業様をご紹介します。

大阪の発展に貢献していきます。

株式会社日本設計



約15年ぶりに、改めて入会させて頂きました日本設計です。弊社は「未来価値の共創」をビジョンに掲げ、総合設計事務所として、建築・土木の設計・監理、都市計画・地域開発などの関連業務、リノベーション業務、コンサルティング業務を行っており、1972年に設置された関西支社も、まもなく50年を迎えます。

1970年大阪万博を契機に市街化が進んだ関西・大阪は、現在、大きな都市再生の機会を迎えています。弊社としましても、都市・建築づくりのすべてのプロセスに寄り添う総合パートナーとして、知を結集し、生き生きとした未来を、皆様との深いコミュニケーションをもって創造し、大阪の発展に、さらに貢献していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



NU築産町 豊田T1T1(豊地計画(基本設計))



株式会社日本設計 企画推進部 担当部長 深田 知子 氏

Event Calendar 2020年度 CITEさろん イベント・カレンダー

◎2020年度					
4/6	月	14:00	◆大阪食文化研究会・食まち回遊イベント(9月18日より)	研究活動	大阪証券取引所集客、愛日会館 ⇒ 中止
4/10	金	14:00	◆4月定例幹事会	総務	中止
		15:30	◆WS報告会・ソトから見た大阪研究会報告会	分科会	延期
5/14	木		◆第29回定例総会	総務	延期
5/10	水	16:00	◆常任幹事会	総務	CITEさろんルーム
7/17	金	10:00	◆2018-2019年度WS 大阪市への報告会	分科会	大阪市役所
7/22	水	16:00	◆臨時幹事会	総務	シティプラザ大阪
			◆第29回定例総会	総務	
8/21	金	13:30	◆8月定例幹事会	総務	ヴィアール大阪
		14:20	◆2019年ソトから見た大阪研究会報告会	分科会	
		14:35	◆2018-2019年度WS報告会	分科会	
9/23	水	15:00	◆第1回プロジェクト見学会(京都)	研究活動	三井ガーデンホテル京都河原町浄教寺 グッドネイチャーステーション
9/29	火	15:00	◆ソトから見た大阪研究会「アンケート意見交換会」	分科会	オンライン開催
10/14	水	14:30	◆10月定例幹事会	総務	I-siteなんば
		15:40	◆さろんトーク	研究活動	
10/19	月	18:30	◆ソトから見た大阪研究会「オンライン宿泊」	分科会	オンライン開催
10/23	金	19:30	◆第1回トークセッション	広報	オンライン開催
10/26	水	14:00	◆第2回プロジェクト見学会(名古屋)	研究活動	名古屋市「名駅周辺地区」 および「栄地区(久屋大通Park-PFI事業等)」
10/27	火	20:00	◆ソトから見た大阪研究会「オンライン宿泊」	分科会	オンライン開催
10/30	金	15:00	◆2020-2021年度WS1(第1回)	分科会	大阪工業大学 梅田キャンパス
11/5	木	15:00	◆2020-2021年度WS3(第1回)	分科会	I-siteなんば
11/10	火	15:00	◆第1回自主活動プログラム(1班)	研究活動	LINKS PARK
11/17	火	15:00	◆第1回自主活動プログラム(2班)	研究活動	LINKS PARK
11/18	水	15:00	◆2020-2021年度WS2(第1回)	分科会	I-siteなんば
11/27	金	18:30	◆第2回トークセッション	広報	オンライン開催

■ホームページを開発しています! <http://www.citesalon.jp/> (一部会員専用ページがあります)

編集後記

2020年は特異な一年となりました。春先からの新型コロナウイルス禍で、CITEさろんの事業も大きな影響を受け、例年通りには進めませんでした。緊急事態宣言下、事務局も閉鎖し、4月の定例幹事会は書面による開催に変更し、また6月は2018年の北部地震以来の中止となりました。ようやく7月に第29回定例総会開催にこぎつけホットしたところです。特に、密になることを避けるため、収容人員の半分以下の開催は違和感もありましたが、その後のリアル開催では一つの形となるとともに、各委員会等の開催については、オンライン開催も取り入れるなど、新たな活動方法として、今後定着する可能性もあると思います。しかしながら、さろんと名がつく所以には、Face to Faceで相互理解と親睦を深める意義は変わらぬものと思います。コロナ禍が通りすぎ、事業の進捗と交流会での懇親が深められる日の近いことを願っています。(事務局)

表紙写真:大阪市空蔵/大阪市 提供
関西国際空港/©(公財)大阪観光局

シテ・レトル
CITE
LETTRE

シテ・レトル
2020年11月号 Vol.82

発行/CITEさろん事務局
〒541-0055 大阪市中央区船場中央2-2-5
船場センタービル5号館2階
一般財団法人 都市技術センタ 内

企画/CITEさろん広報委員会
編集/UTAN VILLAGE